

第1学年 生活科学習指導案

日 時 平成30年11月1日(木) 5校時

児 童 1年1組 男12名 女10名 計22名

指導者 伊藤 光子

場 所 1年1組 教室

1 単元名 つくろう あそぼう

2 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに「がっこう だいすき」、「なつだ あそぼう」の学習において、草花や樹木、虫などの動植物の様子を観察したり、遊んだりしながら、季節を感じる活動をしてきた。また「きれいにさいてね わたしのあさがお」の学習では、葉や花を使った遊びや弦を使った飾り作りなどをして、草花でいろいろな遊びが工夫できることも体験してきた。

就学前の生活経験の中で、どんぐり集めをしたり木の実で遊んだりした経験のある児童は少ない。そこで「たのしい あき いっぱい」の単元では、校庭の落ち葉を拾ったり、身の回りの草花を使った遊びを考えたりする活動を通して、聴覚や嗅覚など、諸感覚を十分に働かせて秋を感じとる児童の姿を目指したい。そして本単元では、自然物を利用した遊びや、遊びに使う物を工夫して作ることの面白さや、みんなで遊ぶことの楽しさに気付かせるような学習を展開していきたい。

(2) 教材について

本単元は、学習指導要領の内容の(5)(6)(8)に関わって設定したものである。第2学年の「うごく うごく わたしのおもちゃ」で動くおもちゃを作る学習へとつながっていく。

前単元の「たのしい あき いっぱい」では、校庭や中庭、校区内の公園で秋見つけをし、秋の自然を体全体で感じながらくり返し自然と触れ合う活動を行う。そこから活動を広げ、本単元では校庭や公園などで集めた木の葉や木の実、身の回りの材料を使って、おもちゃや楽器を工夫して作り、自分でおもちゃを作り出す面白さや、自然の不思議さに気付くことをねらいとしている。また、友達と一緒に作ったり、自分が作ったおもちゃで友達と楽しく遊んだりする活動を通して、友達のよさや自分との違いに気付いたり、相手の考えを尊重したりしながら、生活を楽しく豊かなものにすることができると考える。

(3) 指導にあたって

本単元では、まず、前単元「たのしい あき いっぱい」で、見つけた秋の素材を「見つけたよコーナー」に持ち寄り、自分の見つけた秋を友達にも知らせ広げていくようにしたい。その後、子ども達の中から生まれてきた木の葉や木の実を使った遊びを紹介したり広げたりすることで、「見つけた秋のもので遊びたい、作りたい、飾りたい。」という思いを膨らませるようにしたい。また、比べたり、繰り返したり、試したりしながら作る際には、友達と一緒に作ったり遊んだり、助け合ったりすることで、互いの思いや気付きを伝え合うようにしたい。

次に「みんなであそぼう」では、友達と協力して自分たちの力で遊び方を工夫したり、遊び

を創ったりする楽しさや面白さを実感しながら、自分や友達のアイディアや工夫のよさに気付くようにしていきたい。そして、11月16日に行われるフリー参観日には、自分たちが作ったおもちゃでうちの人たちや地域の人たちに遊んでもらう場を設ける。交流の仕方にも目をむけさせたい。

3 単元の系統性

1 年	2 年
「つくろう あそぼう」 ・おもちゃをつくろう ・みんなで あそぼう	「うごく うごく わたしのおもちゃ」 ・うごくおもちゃをつくろう ・もっとくふうしよう ・あそび方を くふうしよう

4 単元の目標

身近な自然物や、身の回りにあるものを使って、おもちゃを工夫して作ったり、遊び方を工夫したりして、遊びの面白さや自然の不思議さに気づき、安全に気を付けて、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

5 単元の指導計画

時	主な学習活動	評価規準	指導上の留意点
第1次 おもちゃをつくろう			
1	<ul style="list-style-type: none"> 学校の校庭や校区内の公園等で集めた木の葉や木の実、身の回りから集めた材料を使って遊び、おもちゃ作りへのイメージをもつ。 	【関】 自分達の集めた自然物に関心を持ち、それらの特徴をいかしたおもちゃを作ろうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃを提示したり、教科書の「おもちゃずかん」を提示したりして製作への関心を高め、活動の幅を広げる。
2 3	<ul style="list-style-type: none"> 秋の自然物を使って、おもちゃや楽器を作る。 作ったおもちゃで遊ぶ。 	【思】 集めた自然物の中から、使ってみたいものを選び、試したり見立てたりして、工夫しながらおもちゃを作っている。	<ul style="list-style-type: none"> 試し遊びを繰り返し、自分のおもちゃを改良し、工夫して作ることの面白さを実感できるようにする。
4 本時 5	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作ったおもちゃや楽器のことを友達と教え合う。 おもちゃを改良したり、種類を変えておもちゃを作ったりして、楽しく遊ぶ。 	【思】 自分の工夫したところを友達に話したり友達から聞いた工夫を自分のおもちゃや楽器で試して、改良したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> 作ったおもちゃを友達と比べる場を設定し、互いのおもちゃの共通点と相違点に着目して、自分のおもちゃを改良する視点をもてるようにする。

第2次 みんなであそぼう			
6	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ種類のものを作った児童同士でグループを作り、遊び方を話し合う。 ・遊ぶ場の準備をし、場所やルールを確認する。 	【関】 作ったおもちゃで遊ぶ方法を、友達と話し合おうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のおもちゃや楽器に関心をもたせ、みんなで遊びを楽しむことへの意欲化を図るようにする。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに試し遊びをする。 	【思】 試しに遊んでみて困ったことや、友達からアドバイスされたことをもとに、遊びのルールやおもちゃを改良している。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊びながら、作り直したり、ルールを変更したりするなどの工夫を重ねる活動を促すようにする。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・よかったところや改良したほうがよいところを話し合う。 		
9	<ul style="list-style-type: none"> ・秋のおもちゃや楽器を使ってみんなで遊ぶ。 ・楽しかったことや工夫したことなど、気付いたことをカードに書き、紹介し合う。 	【気】 遊びのルールや約束を工夫すると、楽しく遊べることや、友達のおもちゃには、自分のものとは違うよさがあることに気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が工夫したことを言葉にすることで気付きを自覚化させるとともに、友達の作ったものには自分のものとは違うよさがあることに気付かせるようにする。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・フリー参観日で、おうちの人や地域の人に遊んでもらう。 ・遊んでくれた人の感想を聞き、自分のおもちゃに対する愛着を深める。 	【気】 自分たちが、おうちの人たちや地域の人たちを楽しませることができたことが分かり、自分自身の成長に気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人が遊ぶためにはおもちゃの強度を増したり、遊びのルールを簡素化したりするなどの工夫が必要なことに気付かせる。

6 本時の指導（4／10時間）

（1）本時の目標

自然物を使って作った自分のおもちゃの面白さを表現することができる。

（2）本時の指導にあたって

みんなで集めた身の回りの自然物を用い、その特徴を生かしながら作った自分なりのおもちゃには愛着をもっている。作る面白さは体感しているが、おもちゃ自体の動きの面白さや遊びを見通した工夫点について気付いている児童は少ない。おもちゃを見せながら気に入っているところを友達に話したり、友達のおもちゃの自慢を聞いたりすること（グループ発表・全体発表）によって、おもちゃの動かし方や楽器としての面白さに着目した気付きを互いに認め共有することができ、生活科としての気付きの質を高めることができるのではないかと考える。これらの気付きが「理科の見方・考え方」にもつながるものと考えられる。

して、もっと作ってみたいという思いや、新たな工夫を入れてよりよくしたいという思いを膨らませたい。

(3) 本時の指導

階	学習内容・活動	教師の働きかけ ・ 児童の反応	指導上の留意点
出 会 う 5 分	1 作ったおもちゃを確認する。 2 学習課題をつかむ。	○みなさんは何を作りましたか。 ・ どんぐりごまを作りました。 ・ 松ぼっくりを使って、けんだまを作りました。 ・ 小枝と紙で迷路を作りました。 ・ まと入れを作りました。 ・ マラカスを作りました。 ・ やじろべえを作りました。 ○今日は、作ったおもちゃを自慢しましょう。 じぶんのおもちゃをじまんしましょう。	・ 前時までに作ったおもちゃを紹介することを確認する。 ・ 「おもちゃカード」を数枚紹介し、活動の意欲や見通しをもたせる。
関 わ る 30 分	3 グループの中で、自分が作ったおもちゃの自慢をする。 4 全体の中で、おもちゃの自慢をする。	○自分のおもちゃの気に入っているところをグループの友達に発表しましょう。うまく話せないときはおもちゃを動かして、良い点をアドバイスしてもらいましょう。 ○自分のおもちゃの工夫したところを発表しましょう。 <期待される児童の反応> ・ どんぐりごまのつまようじを短くしたよ。大きなどんぐりを使ったら回しやすいよ。 ・ けんだまの糸の長さを長くしてみました。入れるのが難しいで	・ 試し遊びや工夫して作って実感した面白さを話すようにさせる。 ・ 小グループ（3～4人）内で実際に遊んだり動かしたりしながら、自慢した内容を確認しながら聞くようにさせる。 ・ なかなか発表できない児童には、対話をしたり対象物で遊ばせたりして、イメージを膨らませるようにさせる。 【思】自然物の中から、使ってみたいものを選び、試したり、見立てたりして、工夫しながら作ったおもちゃの面白さを紹介している。 （発表・行動観察）

